

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | |
|--|---|---|---|---------------|---------------|---------------|-------------|
| (宛先) 京都府知事 | | 令和3年7月13日 | | | | | |
| 報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都府八幡市八幡沢1番地 | | 報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 城南衛生管理組合 管理者 松村 淳子 | | | | | |
| 主たる業種 | ごみ処分類 | | | | 細分類番号 | 8 8 1 6 | |
| 事業者の区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 京都府地球温暖化対策条例施行規則 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第4号 | | | | | | |
| 計画期間 | 令和2年4月から令和5年3月まで | | | | | | |
| 基本方針 | 平成25年度を基準年として令和5年度に温室効果ガス排出量25%削減を目標とした城南衛生管理組合地球温暖化対策実行計画「地球元気プランIV」を推進する。 | | | | | | |
| 計画を推進するための体制 | 城南衛生管理組合地球温暖化対策実行計画「地球元気プランIV」推進体制 城南衛生管理組合環境マネジメントシステムの運用体制 | | | | | | |
| 温室効果ガスの排出の量 | 温室効果ガスの排出の量 | | 基準年度 (29~1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 増減率 |
| | 事業活動に伴う排出の量 | | 44,308.4 トン | 44,050.5 トン | | | -0.6 パーセント |
| | 評価の対象となる排出の量 | | 47,524.2 トン | 40,049.3 トン | | | -15.7 パーセント |
| 実績に対する自己評価 | | ごみ処分量の減少により、廃プラスチック焼却に伴う温室効果ガス排出量が減少したことが主な要因である。また、平成30年度に稼働したクリーンパーク折居で運転教育、燃焼調整、火格子改造等により、ごみ燃焼が安定化したことにより灯油の使用が減少している。 | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 事業の用に供する建築物の用途 | 原単位の指標 | 基準年度 (1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 増減率 |
| | 工場 | 事業活動に伴う排出の量 (CO2排出量÷処分量/10) | 4.51 | 4.54 | | | 0.67 パーセント |
| | | 事業活動に伴う排出の量 () | | | | | パーセント |
| 実績に対する自己評価 | | ごみ処分量が減少したものの、ごみに含まれる廃プラスチックの割合が増加したことにより、原単位あたりでは温室効果ガス排出量が増加した。 | | | | | |
| 重点的に実施する取組の実施状況 | | 基準年度 (1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 備考 | |
| | | 100.0 パーセント | 100.0 パーセント | 100.0 パーセント | 100.0 パーセント | | |
| 具体的な取組及び措置の内容 | (2)年度 | | 施設の安定稼働、プラスチック製容器処理施設の資源化率向上。 | | | | |
| | (3)年度 | | | | | | |
| | (4)年度 | | | | | | |
| 通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置 | 措置の内容 | | 過去にエコ通勤者への表彰制度を検討したが、通勤実態等に課題があり、策定に至っていない。 | | | | |
| | 上記の措置を実施した結果に対する自己評価 | | 当組合の各施設は、立地条件から公共交通機関による通勤が困難な状況にある。 | | | | |
| 森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量 | 区 分 | | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 備考 | |
| | 森林の保全及び整備によるもの | | | トン | トン | トン | |
| | 地域産木材の利用によるもの | | | トン | トン | トン | |
| | 再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの | | 950.5 | トン | トン | トン | |
| | グリーン電力証書等の購入によるもの | | | トン | トン | トン | |
| | 温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの | | | トン | トン | トン | |
| 合 計 | | 1425.7 | トン | 0.0 | トン | 0.0 | トン |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | ごみ焼却による発電。太陽光発電。リサイクル工房による衣服の再利用。住民に3Rを認識してもらいイベント（環境まつり）。組合広報紙「エコネット城南」による環境啓発。管内小学生の施設見学。 | | | | | | |
| 特記事項 | ・超過削減量7,975.5tを第1年度から2575.5t、第2年度3年度から2700tをそれぞれ差し引く ・再生可能エネルギー分（リサイクルセンター長谷山での太陽光発電設備20kW年間発電量20,916kWh（7.4t）、廃棄物発電設備クリーン21長谷山4,900kW・クリーンパーク折居2,100kW 年間バイオマス発電9,729.474kWh（3,424.8t）） ・代表者の変更有り：変更が生じた日（令和2年12月19日）、変更前（管理者 山本 正）、変更後（管理者 松村 淳子） | | | | | | |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。